

「地域共生社会に向けて」 ～共生の実現に向けた社会福祉施設の取り組み～



特別養護老人ホーム なの国
施設長 藤村 昌憲

－本日の発表の内容－

I. 所属する組織について

1. 当施設の概要
2. 地域の概要
3. 施設のロケーションと社会資源

II. 共生社会における当施設の活動

1. 当施設の活動の趣旨
2. 取り組んでいる3つの活動
3. 当施設の具体的な取り組み

III. 支援活動の現状と今後の課題

1. コロナ禍における活動の制約
2. 人材確保が厳しい中での活動

I. 所属する組織について

1. 施設概要

【開設日】 2015年3月(開設8年経過)

【事業内容】

- ・特別養護老人ホーム なの国 (定員80名)
- ・短期入所生活介護 (定員20名)
- ・デイサービス事業所 (定員30名)
- ・ヘルパー事業所 ・ケアマネ事業所
- ・サービス付き高齢者向け住宅 (定員40名)



社会福祉法人 恵徳会 (1979年設立)

○その他の事業

- ・従来型特別養護老人ホーム
- ・地域密着型特別養護老人ホーム
- ・介護老人保健施設
- ・養護老人ホーム

2. 地域の概要

○人口

福岡市西区 20.9万人

壱岐校区 1.6万人

○高齢化の状況

福岡市西区 23.8%(11.6%)

壱岐校区 28.0%(13.9%)

○高齢者のいる世帯割合

福岡市西区 31.8%

壱岐校区 41.9%

※高齢者世帯に占める1人暮らし世帯

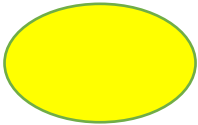
壱岐校区 約25%

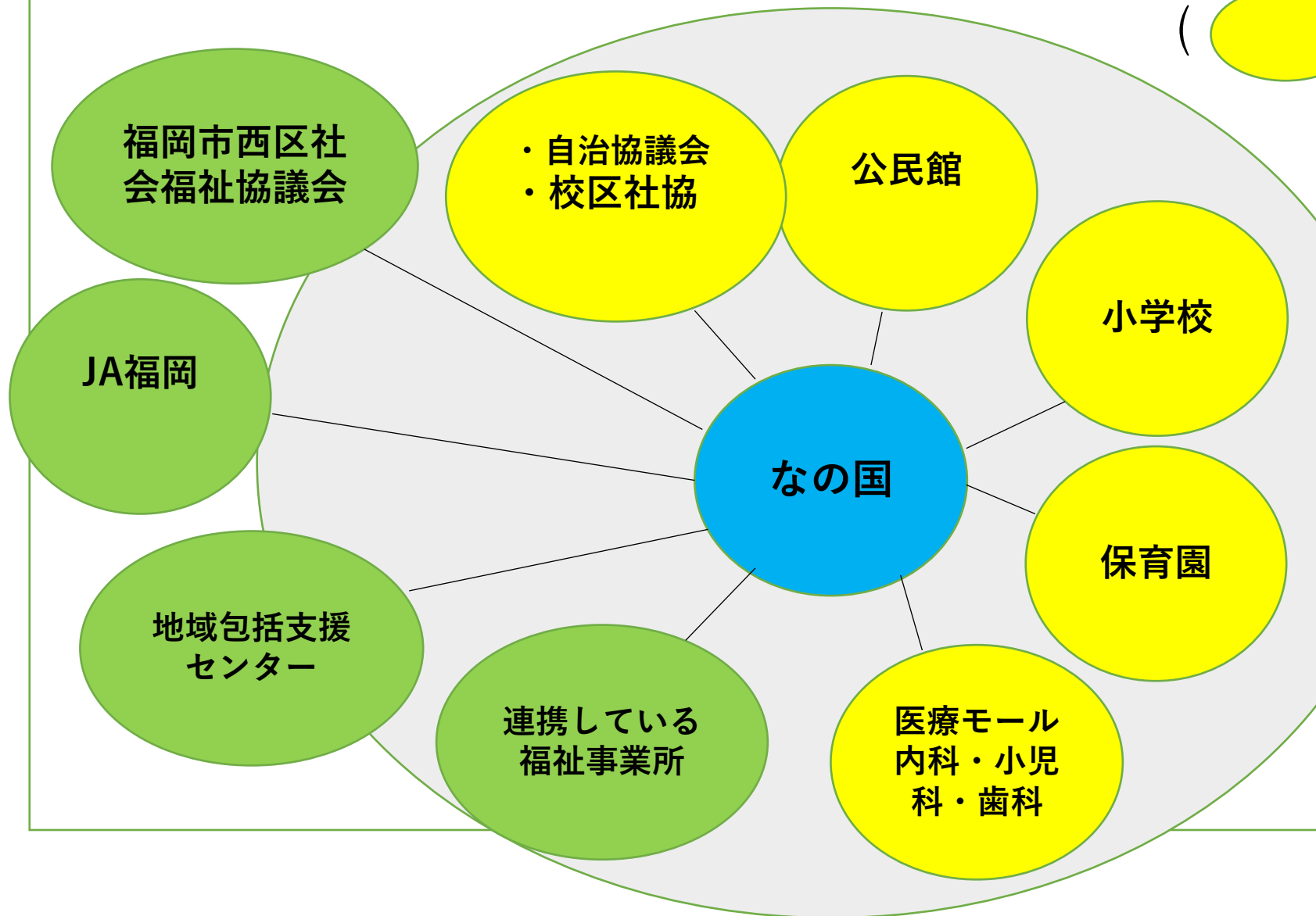
○地域特性

・公民館を中心に、ふれあい交流サロン、いきいきカフェ、子育てサロン等の活動が活発である

・一方で、大型団地内に高齢者世帯や1人暮らしの世帯が多く、丁寧な配慮(アウトリーチ)が必要なエリア

3. 施設のロケーションと社会資源

( 徒歩10分圏内)



○一緒に活動する関係団体が徒歩圏内にあり、情報の交換や収集が大変しやすい場所に位置している

○当施設の利用者も気軽に公民館活動や自治会活動へ足を運ぶことができ、さまざまな活動を楽しんでいる。

Ⅱ. 共生社会における当施設の活動

1. 当施設の活動の趣旨

「施設の地域化(資源の提供)」

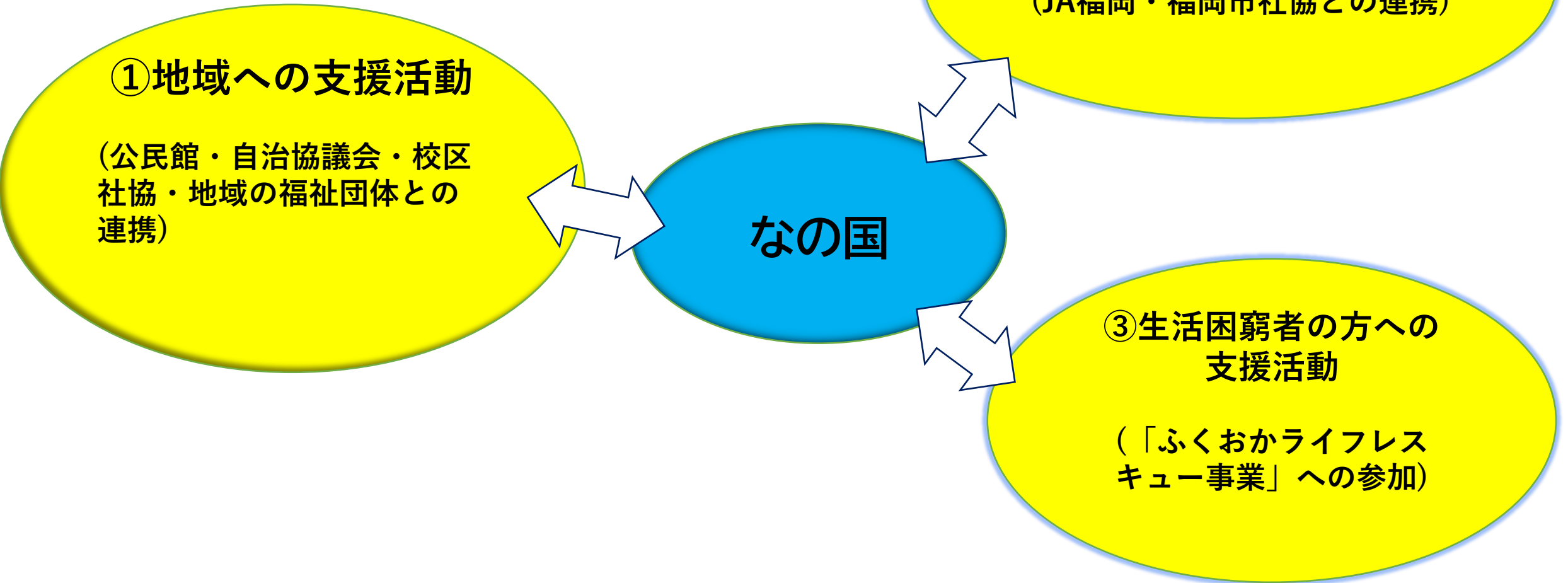
- ①利用者・職員が地域の一員に （地域住民になる）
- ②場の提供 （建物・設備を地域に開放、災害時の福祉避難所）
- ③学びの提供 （職員の専門性を地域で活用してもらう）
- ④マンパワーの提供 （地域と互いに助け合う関係を構築する）

「地域住民からの施設支援」

- ①ボランティア活動 （レクリエーションや施設行事への参加・協力）
- ②災害時の応援
- ③地域行事への招待・参加

社会福祉法人としての「地域における公益的な取組」
セーフティーネットとしての役割

2. 取り組んでいる3つの支援活動と連携している関係団体



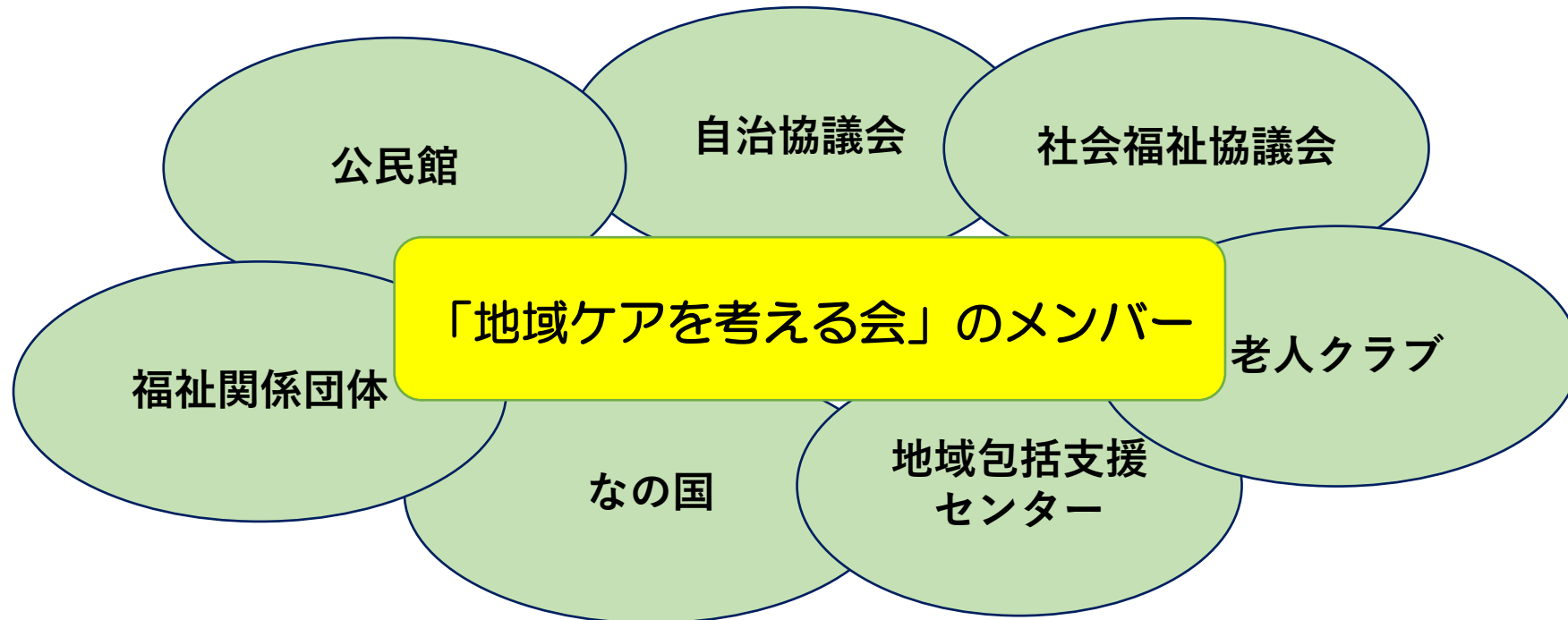
3. 当施設の具体的な取り組み

①地域への支援活動

◎「地域ケアを考える会」の立ち上げと参加

[目的] ・地域の福祉ニーズの発見（情報収集、共有）

・課題解決に向けた活動計画の作成、連絡調整、実践



○「地域ケアを考える会」で取り組んでいる活動例

- ・ **認知症サポーター養成講座**
(高齢者施設での開催や小学校への出前講座)
- ・ **認知症行方不明者搜索模擬訓練の実施**
(校区の中学生以上が参加)
- ・ **認知症の健康・介護相談**
- ・ **「高齢者の食事」に関する学習会の開催**
- ・ **高齢者世帯の暮らしの支援**
(清掃活動、熱中症対策)

※当施設利用者や職員が地域の活動へ参加・協力

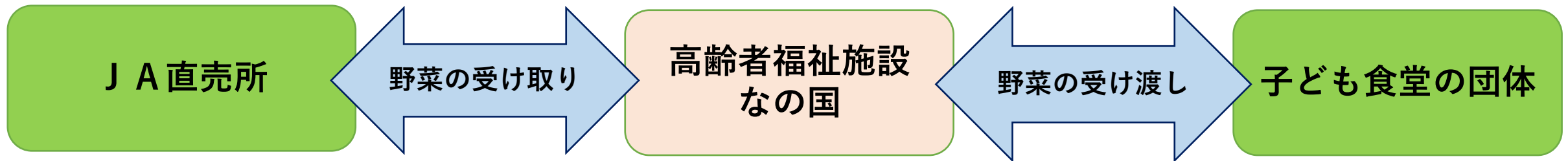
(敬老会、文化祭、子育て交流サロン、河川の一斉清掃)

※施設利用者が「施設の高齢者」ではなく、地域住民としての高齢者になる

②子ども食堂への支援活動

○福岡市社会福祉協議会・JA福岡・高齢者施設の連携事業

- ・福岡市内にあるJAの直売所で販売している野菜を、子ども食堂で活用する事業。(販売終了期間前後の野菜で、まだまだ十分に食べられる野菜を活用)
- ・毎週1回、**高齢者福祉施設(特養)**がJA直売所に野菜を受け取りに行き、その施設に子ども食堂を運営している各団体が行き行き食堂で活用する。(現在、福岡市内5か所で実施)





②ー１ 子ども食堂への支援活動

◎当施設の場合は、

○１ １ 団体の子ども食堂と連携

- ・毎週金曜日にＪＡ直売所に野菜を取りに行き、いただいた野菜の写真を撮り、グループラインで各団体にお知らせする。
希望の食材・野菜があれば受け取り来ていただく。

※この活動を通して新たな活動が生まれました

- ・この支援活動を知った「サ高住の利用者」の方々が、自発的に施設内で募金活動を行うようになりました。
- ・この募金は、子ども食堂に来る「生理の貧困」で苦しんでいる子どもたちに、生理用品を購入し届けることを目的にしています。
- ・今でも、募金が集まったら購入しお届けしており、不定期ですが活動は継続しています。
- ・この募金活動は、利用者の皆様にとっても生きがい、やりがいにつながっています。

③生活困窮者の方への支援活動

— ふくおかライフレスキュー事業への参加 —

○福岡市西区地区連絡会の事務局

○エリア内、15の社会福祉事業所と協働で生活困窮者の支援を行っている。

○支援の内容を充実させるため、情報交換会・事例検討会を定期的に行う

「生活困窮」「孤立・孤独死」「DV」など、様々な生活問題・地域課題が広がっており、制度では対応できない問題で苦しんでいる人たちも少なくありません。

「ふくおかライフレスキュー事業」は、高齢者の介護・障がい児者への支援・児童の養育等、様々な専門性を備え、長年に渡り地域で福祉を支えてきた社会福祉法人が、こうした課題に向き合い、訪問・相談を通じて、困りごとが解決できるようにお手伝いを行う社会貢献の取組です。

③ー1 生活困窮者の方への支援活動

～西地区連絡会が関わった支援活動例～

○経済的困窮への支援

- ・コロナによる収入減、家賃、電話代等の現物支給
- ・所持金が底をつき食べるものがない、食料品・日用品等の提供
- ・妻が出ていき家賃が払えない、ライフラインも止まりそうな肩への支援
- ・お金がなく診療が受けられない妊婦への医療費の補助

○DV・虐待への支援

- ・娘からのDV被害による緊急ショートステイ
- ・DV被害から車中生活なった方への支援
- ・パートナーからの身体的暴力による緊急避難

○生活環境整備への支援

- ・ゴミ屋敷の片づけ
- ・猫の多頭飼い崩壊への支援

○日常生活に必要な食糧・物品の配布

- ・コロナ禍で困窮状態に陥った方々が多く、レトルト食品、カップ麺、お菓子、日用品、文房具、洗剤等の生活用品を配布

※コンビニより、店舗の閉店や改装時に社会貢献活動の一環として寄贈していただいた商品を活用。

参考資料

ふくおかライフレスキュー事業とは？

(福岡県社会福祉法人経営者協議会の公益的事業)

※ふくおかライフレスキュー事業の現況

○福岡県内 259 の社会福祉法人 403 事業者が参加

○福岡県内に 35 の地区連絡会

○2016年から2022年まで約 500 の支援件数

○サポーターの養成 現在約 600 人のサポーター

あなたの「困った」を、社会福祉法人にご相談ください！

ふくおかライフレスキュー事業

困ったなあ。
誰に相談したらいいんだろう

私たち社会福祉法人が「あなた」と一緒に、解決方法を考えます。

- ・今日明日食べるものがない
- ・電気・ガス・水道が止められた
- ・失業した
- ・介護、障がいの悩みがある
- ・虐待やDVを受けている

など、「あなた」の生活の困りごとを、私たち社会福祉法人にご相談ください！

当事業所は、福岡ライフレスキュー事業に参加し、地域の困りごとの解決に努めています！

みんなの暮らしを支える
ふくおか
ライフ
レスキュー
社会福祉法人のネットワーク

Ⅲ. 支援活動の現状と今後の課題

1. コロナ禍における活動の制約

- 対面での活動に制約があるため「顔の見える関係」が作りづらくなった
- その結果、地域の課題が潜在化してしまう(声が聞こえない)
- 支援する側も活動に集中できない(コロナ対応で精一杯)
- 安定経営ができてこそその支援活動(コロナで経営が不安定)

※今後、ウィズコロナに向けて、どのような方法で地域貢献活動に取り組んでいくのか。

2. 人材確保が厳しい中での活動（慢性的な人手不足）

- ・介護人材を含めて職員の確保が非常に厳しい中、支援活動をする職員の確保も困難になりつつある。
- ・それに伴い、支援活動も中長期的な計画に基づく活動よりも、目先の単一・短期的な活動が中心になってきている。

※地域貢献活動で人材確保を！

- 就職希望の学生は、施設内のサービス提供だけではなく、施設を取り巻く環境にも目を向け地域で活躍したい希望が強くある。
- 「地域貢献を行っているか、否か」は、学生が就職活動を行う上で重要なファクターになっている。

◎特定の人々だけの活動から、すべての世代の地域住民を巻き込んだ活動へ

ご清聴ありがとうございました。